

2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [木津川市立木津南中学校] 担当教諭名 [宮原 麻美] (美術部11名)

相手国・地域 [アゼルバイジャン]

海外学校名 [School Lyceum #220] 担当教諭名 [Nahida Huseynova]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	部活動	アートマイルプロジェクトで世界につながろう	70

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	"Friendship can overcome Times and Differences!"
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	壁画のテーマについて相談した結果、1. History 2. Tradition 3. Friendship という3つのキーワードを盛り込もうという事になりました。自国の歴史や伝統文化を描いているリアルタイムの自分たちは、交流による友情でその違いを乗り越える事ができる！というメッセージが込められています。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・アートマイル関西セミナーにも参加し、大変意欲と興味を持って取り組めた。 ・相手が作成したプレゼンテーションで相手国の日本の印象や向こうの学校生活がわかり、日本の様子も伝えたい！と初めてビデオレターを作成できた。 ・構図や表現方法を工夫して描くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流のスタートが学校行事と重なり、こちら側の自己紹介が遅くなってしまった(フォーラムの形式が変わり手間取った。これはP.C 苦手な教師側の課題です。) ・できればテレビ会議がしたかった。 ・相手校の先生の健康上の理由で壁画の完成が遅れたが、それはしかたがないと思う。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・アゼルバイジャンは、あまりなじみのない未知の国だったが、交流が進むにつれて、その魅力がわかり、より興味関心が強まった。 ・どんな風にしたらありのままの自分たちを伝えられるか考え、いろいろ工夫し、協力して取り組めた。 ・不登校傾向の生徒たちも、部活動を楽しみに登校し、休日の活動にも頑張って参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と同様、あまりなじみの無い国だったが、非常にきちんと対応してくださり、好印象で楽しく取り組みを進められた。 ・生徒たちのやる気に背中を押されて、初めての事(動画の撮影と編集)にもチャレンジできた。 ・もっとスムーズにP.C 機器やネットが使えるようになりたいと思った。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月 10月	ネームカードを作り、自己紹介カードの下書きに取りかかったが、英訳して清書するのに時間がかかった。自己紹介カードと自作の絵を描き、写真と一緒にフォーラムに載せた。	フォーラムの相手校の自己紹介を嬉しそうに見ていた。あまりなじみの無い国だからこそ、新鮮だったようだ。	部活動
共有 テーマ学習	9月 ～ 11月	アゼルバイジャンについてテーマを分担し、調べ学習をして発表しあった。相手の日本の印象のプレゼンを見て相手の国の歴史や伝統文化と共に普段の学校生活に興味を持った。	図書館には資料があまり無く、主にネットで調べた。アゼルバイジャンの生徒がパワーポイントで日本の印象や自分たちの学校生活の様子を紹介してくれ、興味深そうに見ていた。	部活動
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月 ～ 3月	アイディアスケッチを出し合い、良かったものから構図を決めていった。絵の中に自分たちを描く表現方法を工夫した。動画を数本撮ってYou-tubeで送った。	自分たちのアイディアを組み合わせるのが楽しそうだった。動画作りもアイディアを出し合い、脚本も書いて撮影した。	部活動
創造 壁画制作	11月 12月	12月は休日のほとんどを壁画制作にあてた。まとまった時間がとれて、制作も早く進んだ。	初めて TENTART で色塗りをする1年生も、発色の美しさや塗りやすさを楽しんでいた。上級生がグラデーションの塗り方などを教えていた。	部活動
評価 振り返り 自己評価	4月	フォーラムの完成壁画の画像を見て鑑賞会を行った。	相手側がこちらの意図に協調しつつ、その表現の違いに驚き、一つの絵にまとまっていて感動していた。苦勞した分、感慨もひとしおだったようだ。	部活動

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	3	描く時代を分担した。熱心に調べた生徒もいたが、歴史が苦手な生徒は自文化の理解まではあまり深まらなかった。
異文化の理解	B	4	あまり知らなかったアゼルバイジャンの事を写真やプレゼンでいろいろ知ることができた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	自己紹介や動画での英語は、ALTに手伝ってもらい訳した。何を伝えるかを自分たちで考え、全員が頑張って英語で話せた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	ネットでの情報収集についてはパソコンルームや生徒が自宅で行った。図書館も利用した。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	4	部内では学年を越えたコミュニケーションの機会が増え、仲良く制作に取り組めた。海外の相手との個別の関係はできなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	休日寒い中登校して、しんどい時もあったが、協力しあいながら粘り強く制作に取り組めた。
学習を追究する意欲	B	4	アートマイル関西セミナーに参加して、過去の先輩たちの壁画作品や他校の取り組み等に刺激を受けた。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	5	フォーラムで相手に意見を伝えた。各自が分担部分の表現方法を工夫し、協力しながら仕上げる事ができた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	A	5	予想以上に鑑賞の視点もしっかりしていて、振り返りも客観的にできていた。自分たちで成長できた!という実感があったようだ。